

令和2年 11月5日  
(2020)

第1555号 毎月5、20日発行  
昭和45年12月19日第三種郵便物認可

ホームページ

<https://www.sanki-kanagata.com>

# 日本産機新聞

THE NIHON SANKI SHIMBUN

## アルカリ切削液を自動生成

### U.ENG 管理コストを大幅削減



U.ENG (千葉県船橋市、047-767-0276) はこのほど、アルカリイオン水の切削液を自動で生成し補給する装置「ハイブリッド切

削液自動補給装置 HCS-100型」を発売した。切削液の管理が確実で、容易になり、ランニングコストを大幅に削減できる。本体の想定価格は500万円(税別)。

同装置は、飲料用水道水とアルカリイオン水の原液を混合することで、自動で水素イオン指数(pH)を管理する。パケテリアが生息できないとされるpH10.0〜11.0の範囲で管理するため、腐敗や悪臭の発生を防ぐことができる。これまでpH管理は、作業者の手間やコストがかかっていたほか、人的ミスが原因で安定した管理が難しかった。同装置によって、安定的な管理が可能になるほか、ランニングコストも大幅に削減できる。「マシンング

センタ(MC)20台で1年間使用すると、60〜70%のコスト削減効果がある(内山忠男代表)。生成したアルカリイオン水は、普通の水に比べ、分子が2分の1と小さく、浸透性に優れるため、刃具の切削性が向上する。加工時間が短縮するほか、工具寿命も向上する。また、水溶性だけでなく、添加オイルによって、油性切削液としても使用できる。

補給タンクは100ℓで、旋盤やMC、研削盤などの加工機に対応。電源は100V。切削液生成に300W、切削液送りには400Wの電気を消費する。外形寸法は幅520mm、奥行き1280mm、高さ1355mm。同社は2012年に創業。これまでに浮上・堆積スラッジを回収する切削液浄化装置などを手掛けてきた。内山代表は「ハイブリッド切削液自動補給装置で、コストダウンや環境改善といった現場の課題解決に貢献したい」としている。

HCS-100型 ハイブリッド切削液自動補給装置が令和2年11月5日

日本産機新聞に掲載されました